

職人芸に宿る伝統の味を 明日の神戸ファッショニ

■座談会出席者（敬称略・順不同）

渡邊千城△株渡邊洋服店・社長▽
飯島祺雄△株神士服飯島・社長▽

世々ヨコヤマ洋服店・代表▽

中田忠謙△株太田洋服店・営業部▽
島立英明△株太田洋服店・営業部▽

——本キャンペーン座談会の一つの大きなテーマである

“ファッショニ”。

前回は若者層に照準を合わせ、ブティックオーナーの方々にヤングファッショニの動向などについてのお話をうかがいました。今回はもう少し視点をアダルト層に移し、代々神戸の地で店を構えておられる注文紳士服店の経営者の皆さんに、神戸ファッショニについてのお話をうかがいたいと思います。

まずお仕事を通じて日頃感じていらっしゃること、お考えになつていらっしゃることをお話いただきたいと思います。最初に自己紹介をかねて、この業界に入られたいきさつなどをお聞かせいただきたいと思います。

「代々受け継ぐ技術が神戸ファッショニなんですね」

渡邊 うちは父が田舎から出て来て、洋服店に徒弟として入社し、昭和6年に独立してやつてたんですが、戦後の闇市の混亂時代にアメリカの憲兵隊長と知り合いになり、外貨をゆずつもらつて外人向けの店に出入りすることができるようになり、当時稀少価値であった輸入服地を扱えるようになって、よそ様よりも有利な商売をすることができるようになりました。そういうことから全國の問屋に生地をまわす立場になり、その一部から紳士



渡邊千城



飯島 祺 雄

足立 英明

田中 謙司

横山 忠世

中島 正義

服地以外に輸入生地販売部門を置きました。私は、生地の輸入専門ということで英國の毛織会社へ3カ月程つとめたりしました。生まれた時から洋服屋だったというわけです。

飯島 私は関東の人間で、昭和33年に神戸にきました。洋服作りの職人で入り、知らない土地でひたむきに洋服を作つて現在に至つております。昭和38年に独立しました。根っからの神戸っ子とは違うという意味では、特色のある洋服屋どちがいますか。

田中 大正4年におじいさんが関東から職人としてやってきました。親父も職人としてやっています。僕自身は3代目で、先代同様、技術一本でやってきました。

中島 うちのおじいさんが石川県から出てきて神戸で修業して、技術では名人のうちにいるといわれた人でした。父もその弟子で、私も3代目です。私は学校を出すぐおじいさんについて技術を教えられましたが、なかなかおじいさんのようにうまくいきません。昭和37年に独立して自分でこつこつ商売をしています。昭和58年から、元町3丁目のショールームの中にテナントで入つていましたが、経費がかかりすぎてお客様に負担がかかるのでやめ、今は、自分の家の方でやっています。

横山 私は魚屋をしていましたが、灘区で叔父が洋服屋をしていましたので、17歳の時に、そこに入り、まる24年外へも出ずに年中無休で仕事をしてきました。15年くらい前に独立し、自分で縫つて自分で納めています。兄弟弟子がはたに居てくれて、恵まれた商売をしています。

足立 私は皆さんとちがつて但馬に18年住んでいて、高卒時、姉の嫁ぎ先の太田洋服店に入れてもらいました。技術は全然なく、営業だけやっていました。社長と従業員との間のパイプ役になれたらしいと思っています。

——神戸の紳士服の特質について、感じられること、誇れるところはどんな所でしょうか。

中島 神戸洋服の一番いい所というのは昔からの伝統で

技術がよく、型くずれせず、細かい所まで心がゆき届いていることですね。最近その技術がおろそかになつているような気がしますが。

田中 技術は代々受けついでゆかれるのですが、過去の人の名声は追い越せないです。親父よりおじいさんの方が上手だったとか、実際は追い越しているんでしょうがそういう印象がしますね。それが伝統というものでしようが。

中島 時代に応じてその時代はそれがよかつたんでしょうが、今は消耗品の時代で、そんなに細かい仕事をしなくてもいいという時代になっていますね。洋服に対する観点が変わってきてるんですね。既製品が出てきたというものはそこなんですね。

渡邊 神戸洋服がいいということは、技術面はともかく販売の面からいいますと、神戸の町の村的な要素が一役買っていると思います。いいかげんな仕事を一つ納めると次の日には噂がワーッとひろがって、お客様の信頼を失い、そこに存在できないようになってしまいます。消費者の目が非常にきびしいということです。だから仕事はよくならざるを得ないということです。消

足立 注文服はお客様との人間関係がきついですね。消

費者が年々高いレベルから物を見るので、裏地、ボタン一つでも気を使つて作つておかないとお客様が逃げていきますからね。昔ほど神戸洋服という見方をお客様はないんじゃないかなと思います。自分の店がたまたま神戸洋服だったということが多く、個々の店の姿勢が問われてくる時代になつたと思います。

田中 神戸洋服というのは、今では過去の遺産であると我々は言つてゐるんですけどね。今技術的にはどこもかしこも独立したものはないと思いますよ。日本中どこもいつしょで、田舎とか町とか関係なしにすべて一つの線に並んでいます。

横山 神戸で長年修業した本当にうまい人が、九州へも四国へも流れていつてますし、それにこの頃の子はかし

こいから、手先の感覚ですることでも電話で教えてやつたらできるくらいに技術がゆきわたつますからね。

飯島 „神戸“にこだわついたら乗り遅れますよ。消費者がそれをどこまで認識しているか疑問ですね。結果的にいい洋服が„神戸洋服“であったということじやないでしようか。

「お客様のセンスを磨くのも我々の仕事です」

——あえて„神戸“である必要もないわけですね。これから売つていくとしたらどの辺をアピールしないといけないでしようか。

中島 やっぱり神戸の人はおしゃれで、色、柄、ボタン一つでもうるさいですよ。

足立 „君に会つて服のセンスが変わった“とお客様に言われるのが一番嬉しいという話をこの間、田中さんが言わわれていますが、お客様をいかにおしゃれに指導するかが販促の問題ですね。急に変えるわけにはいかないでしようが。

渡邊 うちも直しが多いんですが、一般に直しの納期が遅いとお客様から聞きますね。私の所では限界を2週間くらいにしています。こういうふうにマイナス面を消すことも大事ですね。

田中 以前ネクタイの直しをやつてかなり反響がありましたね。こういう話題性のある動きもほしいですね。

横山 昔の技術と、今の技術はちがうと思うんですよ。昔は裁断する人が下手でも上手な名人が縫えてしまうのが縫え、60~70%が裁縫にかかるわけですね。今は裁断はそこそこの基本を皆知つて線のいい服は勉強すればできますから、裁断の方で、販売とか、神戸洋服ということにつながつたらいいと思いますけどね。

飯島 K・T・Aという技術団体を作つていますが、昔とちがつて、センスのある服を作つてくれと言つています。10年も20年も着のとちがうから、とにかくセンスのある服を作つてくれと……。

足立 最近のお客様は裏のつけ方とかうるさく言わないですね。寸法があつてカッコよかつたら“おまえんとこはうまい”ときますもんね。

飯島 お客様を自分の店に合うよう作っていかないといけませんね。今までにはありましたと低姿勢でした。我々は物を作つて売るに誇りをもつてお客様に魅力を持たせる販売をしていかなければいけないのところがいますか。

中島 洋服屋自身がいつも勉強しているという姿勢みせるのが一番ですね。

渡邊 お客様が多くなるといろいろな人が出てきて、一つの枠にはめられません。お客様がこうして欲しいと言葉よりお客様の要望を優先しています。

飯島 ある程度お客様の要望にそわなければいけませんね。

渡邊 主人の好みをお客様に押しつけると逃げられますが、特に若いお客様に多いですね。お客様に応じた仕事は、しなきやいかんででしょうね。

——時代の流れと共に客の好みが変わった、ということがですね。技術、センスのある職人を育てる責任と

か、後継者の問題はどうでしょうか。

横山 注文洋服のお客は、店ののれんにつかないですね。個人的な人間関係のお客様ばかりです。お客様とのコミュニケーションはむずかしいですよ。

足立 注文洋服の技術者は組織では育たないです。個人によって育てられますから。2、3年先を見こした経営ができないですね。その日を一生懸命やるだけが精一杯で、2、3年先を見こしての人集めはできませんし、むずかしいです。

横山 あと10年たつたら、ほとんど既製品になって、注文服はダメになるかもしれませんね。

中島 後継者問題は一番むずかしいですね。現在はお客様がありますが、10年先になつて注文服を作るお客様があるかないか疑問ですね。どうせ消耗品だから既製服でいいといわれたら技術者は必要がなくなるわけで、今から若い後継者を育てても仕方がないですからね。ですが本當は、伝統を守るとしたら我々が後継者を養成して残していくしかないといけないんですけどね。

足立 いかないといけないんですけどね。

田中 最低賃金制と労働時間制がいわれてからそれができなくなりましたね。昔は徒弟制度があつたからできますけど。どの分野でも後継者がなくなりますね。

中島 行政である程度養成してくれたらいんですけれどもね。個人で養成するのはむずかしいですよ。婦人の洋裁学校の中に紳士服を教える所を作るとか。

横山 板前のように学校で習つてもダメですよ。洋服も学校で習つても使いもんになりません。

中島 しかしはある程度わかつてきてから教えるのと、全然わからないのを一から教えるのとではちがいますよ。**足立** 神戸のファッショントリ都市づくりの一翼をわれわれも担つているのですが、業界はなかなか苦しいですよ。それに神戸は人口の割に同業者が多すぎますね。大阪か

ら来ている人もいますが、神戸から大阪に出ている人の方が多いです。いかに神戸は商売がむずかしいかということですね。

渡邊 私の所のお客様は8割が東灘から西宮にかけての人で、勤め先は大阪の人ですね。神戸に仕事場をもつて人は少ないですね。住環境としてはいいですけどね。

飯島 商売の町とちがいますわ。

中島 神戸市も神戸ファッショントリビュートを提唱するんだつたら業者がもうかるような方策をとつてもらわないと困りますね。(笑)

横山 ファッションというと華やかに聞こえますが、一般の方のみる技術と、職人のいう技術はちがうんですがね。

田中 しかし神戸はたしかにセンスはあるといえるんじゃないですか。

横山 神戸はセンスはあっても、何かこちやこちややつていうだけという感じもありますね。

足立 ファッションでは神戸はどちらかというと保守的ですね。

若い層へのアピールが今後の課題

——最後にしめくくりとしまして、少し、これからについてのお考えを一言ずつお願ひします。

足立 自分が選んだ道ですからこの道しかないと思います。お客様から、あいつに会ってよかつたといわれる男になりたいですね。自己鍛錬をして、お客様にちよつとでもプラスになるようなことをしたいです。そしてそれが商売の発展につながると思います。

中島 K・F・S(神戸ファッショントリビュート)でファッショントリビュートについて勉強していますが、紳士服ならい�建て、洋服屋になつたらあかん。おやじさん、マスターであり、お客様の身になつてアドバイスできる人

であります。できたら息子に継げる店であるようにならなければなりません。

飯島 残り少ない人生を趣味と実益をかねた商売であるようにがんばりたいです。(笑)

田中 趣味を通りこして道楽になるようになりたいですね。道楽で商売すると苦にならないし、睡眠不足もしんぼうできます。

渡邊 いろいろな会合に行くと、あるクラス以上になるとみな注文服ですね。既製服より注文服がいいとすればいい物を着たいというのは人間の本性ですから、いつの時代でも人間の本性は変わりません。ですからそれに合う体作りをしていったらこの商売は終わらないと思いますよ。

中島 今の独身貴族の年代で注文洋服のよさを知つてゐるかというと、百貨店なんですね。その辺が残念だから少なくともそれを私達の洋服屋さん同士でとつていけたらやつていけるんじゃないかと思ひますけど。

中島 今の独身貴族の年代で注文洋服のよさを知つていただく必要がありますね。昔は父が息子の服を作つてやつてましたが、今は高くて作つてやれなくなつて、注文服のよさがわからないまま大きくなつたから、既製服ですから、そういう人達に注文服のよさを知つてもらつたから、これからはきっとよくなりますよ。

横山 今第一線で活躍しておられる職人さんは、高い技術をもつた人が多いから、これからはきっとよくなりますよ。

——若い人たちが、常に新しいファッショントリビュートを追いかけている反面、神戸には昔からのスタイルを自分のファッショントリビュートとして持ち続けている人たちも多いと思います。そういう人たちのためにも伝統を受け継いでいくつて欲しきですね。本日はどうもありがとうございました。

(プラン・ドウ・プランにて)

田崎真珠株

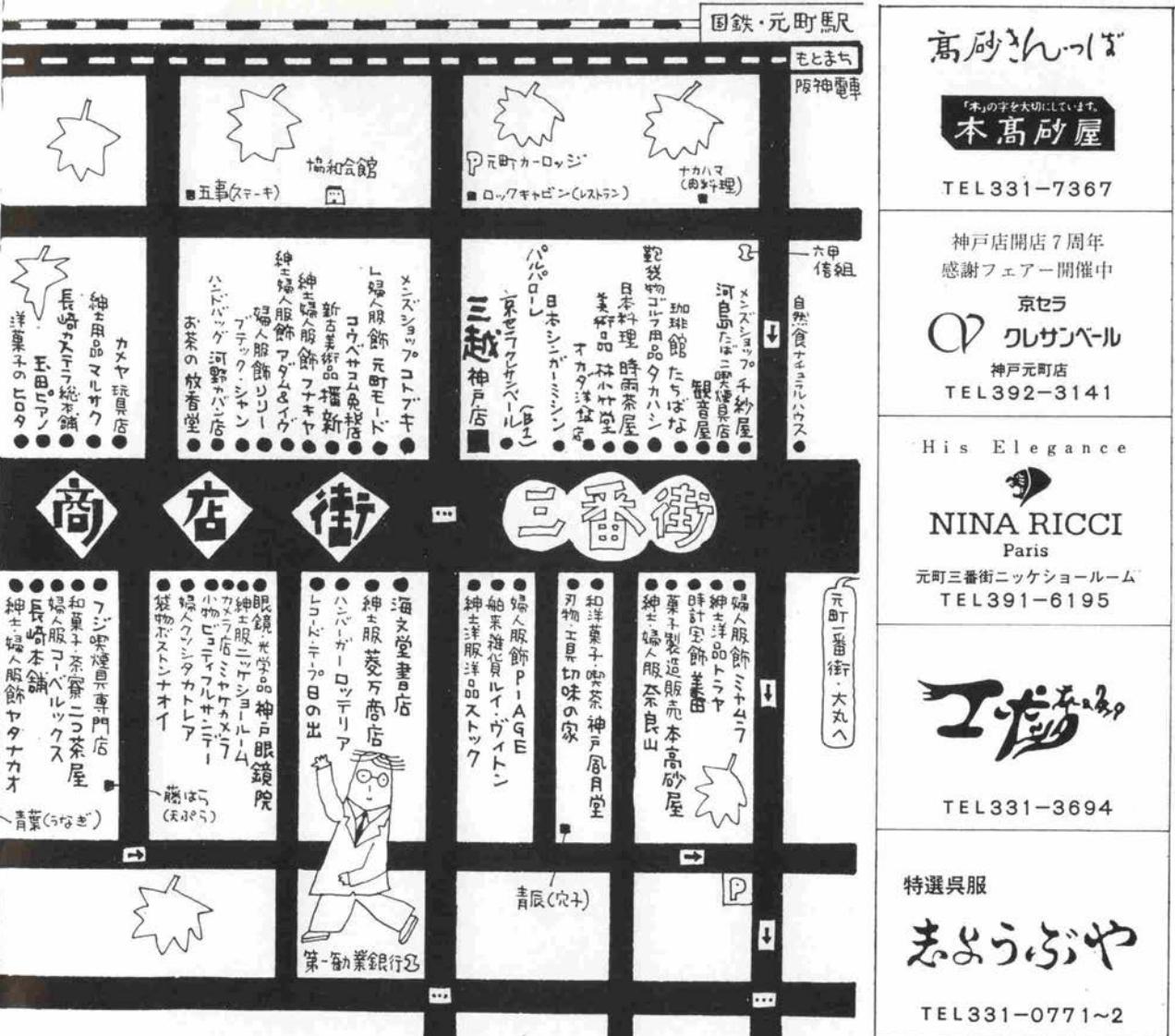
取締役社長 田崎 梶作
神戸市中央区港島中町6-3-2
TEL (078) 302-3321

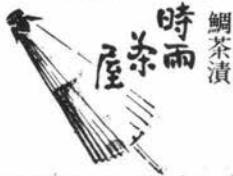
オールスタイル株

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区伊藤町121
TEL (078) 321-2111



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の企画は以上2社の提供によるものです。





TEL 331-0070-1060

men's clothes

川 村

元町4丁目
TEL 341-6676

MS.シヨレッタ XEROX

SBM

SUNAMI BUSINESS MACHINE

TEL 341-5531

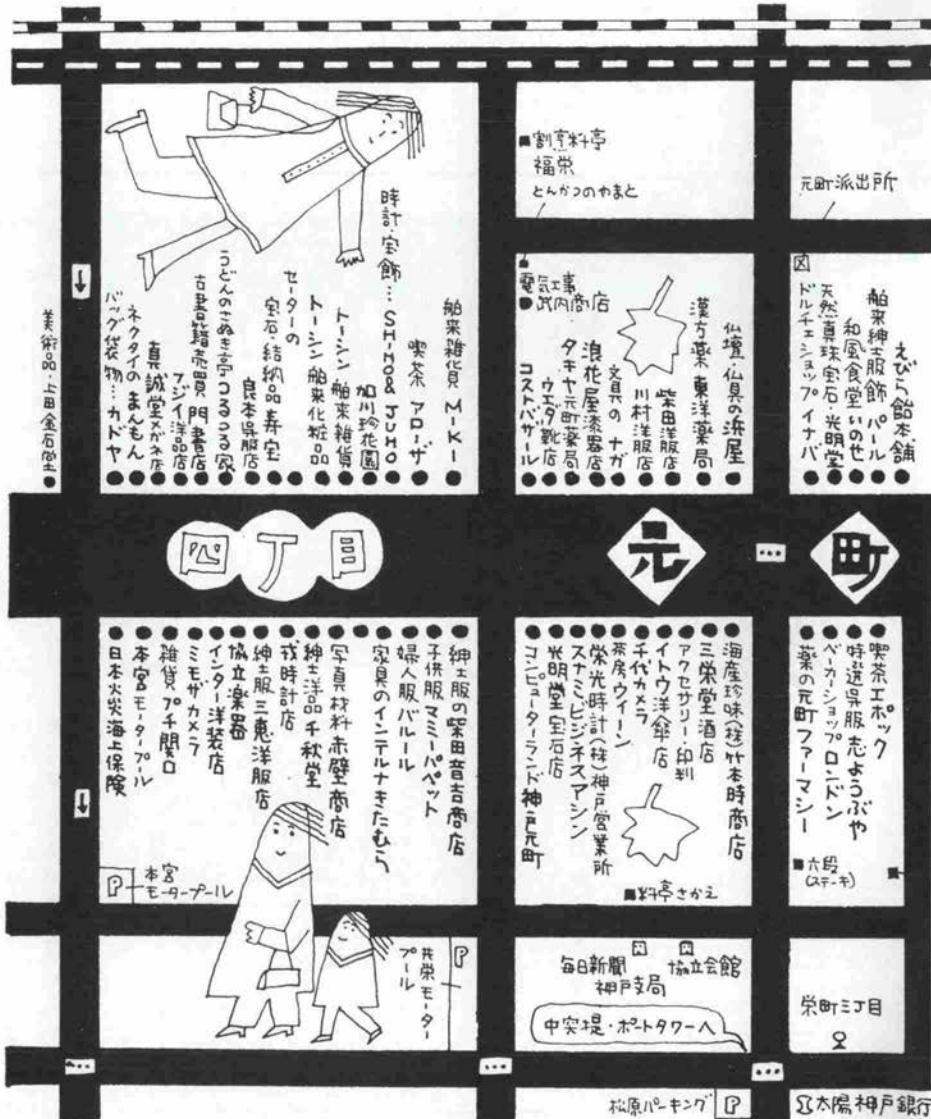
SHOE SHOP
中工制

元町4丁目
TEL341-5075

Time Jewelry Bridal

SPACE
SHIHO & JUHO
motomachi 4

TEL 341-7189·6440



社団法人日本ホテル協会の昭和61年度秋季総会が9月29日、神戸国際会議場で開催された。

活力ある産業目指し 全国ホテル業者集う

<I>

話題のひろば



あいさつをする吉原会長(右上)祝辞を述べる石野神商会頭(右中)鏡割りをする吉原会長と河野支部長(右下)石野会頭の音頭で乾杯(中上)美人の夫人連れで…(中)氷の彫刻が華やか(中下)石野会頭を中心に(左上)来賓の方々(左中)帝国ホテル丸社長を囲んで(左下)

総会後の神戸ポートピアホテルでの晩餐会では、約400名の全国のホテル関係者や来賓が出席し、盛況に行なわれた。吉原政雄会長(パレスホテル社長)の挨拶の後、ミス神戸、準ミス神戸の二人から手渡された植により、吉原会長と河野良三支部長(オリエンタルホテル社長)が鏡割りを行なった。来賓代表の石野信一神戸商工會議所会頭が「ホテル業界も競争の激しい時代となつて來たけれど、それは言い変えれば活力のある産業だという証拠。これからも大いに発展することを願います。」と述べて、乾杯の音頭をとつた。

会場には、帝国ホテル、ホテルニューオータニ、京王プラザホーレ、ホテルオークラ、ロイヤルホテル、川奈ホテル、ホテル日航大阪、ホテルプラザ、杉乃井ホテルなどを始めとした全国各地のホテル関係者が顔を揃え、華やかな中にも厳肅さを加えたホテル業界らしいパーティであった。

話題のひろば

<II>

■ “文化都市こうべ”の創造に貢献

’86神戸市文化賞・文化奨励賞贈呈式



左上／受賞者の方々 右上／宮崎市長より賞状を贈られる河本春男氏 下左より佐本進氏夫妻・新野幸次郎氏と小島幸さん・宮崎豊治氏夫妻

そして、将来の活躍が期待される奨励賞には、彫刻家の宮崎豊治氏と「神戸マリンパーソナリティ」主宰し、ユニークな演奏会企画している宮本慶子さんが選ばれた。表彰式は、文化賞には賞状、記念品（銅鑄レリーフ）と賞金二十万円、奨励賞には賞状と賞金一〇〇万円が宮崎市長より贈られた。

さらに坂井神戸市会議長より「これからも神戸の文化発展、後進の指導に貢献して頂きたい」とお祝いの言葉が述べられた。

文化賞には、戦前戦後を通じて生活に根ざした詩作活動に励んだ林喜芳氏、神戸市洋画壇の重鎮として後進の指導に貢献している兼行武四郎氏、きらびやかなソプラノの持ち主の小島幸さん。

また神戸大学学長の新野幸次郎氏、衣食住の改良研究に励む浅野晶子さん、芸術家の創作活動の場にと自宅の一部を「シアターボンエット」として開放、地域文化の振興に貢献した佐本進氏、神戸市サッカー協会会长としてサッカーの普及と発展に尽くした河本春男氏ら七人。

神戸市の文化の発展に貢献した人たちに贈られる、六十一年度、神戸市文化賞と文化奨励賞の表彰式が十月一日、相楽園会館で行われた。



月組の若さを生かしたショーキー

月組の若さを生かしたショーキーは、小さい時から映画が好きで、それこそチャンバラからミュージカルまでいろいろなジャンルを楽しんでいます。

岡田 久しぶりに月組で仕事をすることになって、今回は、この組が持つている若さを生かして、タンゴに始まってオペレッタ、ジャズと、バラエティ豊かに展開するのがねらいで、トータルには『ラ・ノスタルジー』(郷愁)なので、セビア色のムードでいこうと思っています。

剣 私は小さい時から映画が好きで、それこそチャンバラからミュージカルまでいろいろなジャンルを楽しんでいます。

舞台を観る感動をたくさんの人間に

★Oh! タカラヅカ対談★ ▲宝塚歌劇団・演出家▼

岡田 敬二 & 剣 愛幸

一ジカルまでいっぱい観いて、頭の中に今でもあって、それがセビア色なんです。だからムード的なショーキーにしたいですね。

岡田 ウタコ(剣)とダンスの家城比呂志先生は、富山市が生んだ二大スターだからね(笑)。

剣 富山は芸能関係で活躍している方が少ないですし、舞台とかよりも、もっと他のものに興味を持たれる方が多いですね。

舞台を観ることとか、それによって感動することは人間にとって大切なことだと思います。

岡田 大切なことを大切に思っているんです。宝塚に限らず、良い物が場所がないために来ないとい

うのは残念なので、設備を整えていただきたいですね。先生は東京のご出身でしたね。

岡田 そう。東京で生まれて育つて。僕で九代目の江戸っ子(笑)。下町の生まれだから言葉が悪くて。

剣 そうですか?

岡田 心の中に納めておけない方でね。稽古場ではとにかく発散して、お客様に楽しんでいただくために、演じるものも、創るものも

楽しく、とにかく明るくやらなければいけないというのが僕の信念で、今回のショーキーでもビートルズの『フールオン・ザ・ヒル』という曲を使って、ウタコが郷真由加とこだま愛を取り合う場面を、喧嘩をしながらのデュエットでやつてみようと思っている。

剣 よくニューヨークなんかで舞台を観ると洒落てるんですけどね。かけ合いで、単に二重唱しているとかじやなくて、芝居がらみでポンポン、リズムが交替して、言葉がわからなくても、おもしろいこと言つてる感じがよくわかつて。

これまでにないタイプのデュエットで嬉しいですね。私は剣幸という大きな魅力があるわけではなく、黒っぽいとか、赤っぽい、という形の個人的魅力が意外にないと思っているんです。そういうものを持つた人が芝居をやれば、〇〇さんが演つた〇〇の役になるけれど

ども、私にはないから、それが短所でもあります。長所もあるんです。

けれども、役に全部のめり込むんです。作品によって全然違っています。作品は特に、場面ごとにコロコロ変わったら楽しいですね。

岡田 逆に言えば、演出家の色に染まってくれるわけだから演出し

がいがあるね。剣岳の清潔感があるし(笑)。

岡田 こだまくんはとても才能がある人だし、踊りは定評があるところで、僕たち演出家にとって必要なことは、どれだけ舞台で輝やくか、ということなんだけど、彼女の場合、可憐なことなど、彼女でも大人っぽい場面も出来るし

僕が

哀愁

コンビ

と

言ってぐ

らい、ウ

タコとの

コンビ

は、見せ

るという

点で満点

に近いん

じやない

かと思つ

ている。

こだま

(笑)光栄

です。こ

の一年あ

つとい

間に過ぎ

ました。

音楽学校に入った

一番最初は、少年

役でもいいから男役をやりたかったんです。

岡田 (笑)エーッほんとに。

こだま レッスンが実際始まつて同期生とかまわりを見わたして、自分の顔を鏡で見て(笑)、やっぱり向き、不向きってありますで

しょう。そこで、ちょっと無理じやないかと思って、それからは娘役の勉強をずっとしてきて、今で

も機会があれば男役をやってみた

いです。憧れの気持ち今は今もずうつとありますけどね。この一年で

変わらなかつたし、ますます大きくなつたのが、舞台が好きだつていう気持ちですね。どんな端でも

出しているのが楽しくて、役を作つていくのがおもしろくなつていた

時に、ウタコさんの相手役で通し

の役を頂くようになって、最初、大きな流れというのが戸惑つたん

です。私は割に、瞬間に弱いタイプで、時間をかけて膨らましていく方なので、ウタコさんがそれを待つて下さる、というか、一緒に考えてやつて下さるので、とてもも幸せだと思います。

岡田 剣くんの場合、非常に大人だから、ミミ(こだま)のことを考えて大人の対処をしてるんじゃないかなと思う。その意味では、コンビネーションが安定している。

剣 私は、二人で作っていく段階がすごく大切だと思うんです。一



素敵な女性を自然に演じられたら(こだま)「ピーターパン」をやってみたい(剣)



人が引っ張り上げるとかじやなくて、芝居はやっぱりみんなでやるものだと思いません。それが大切なことだし。

岡田 天才的に、感覚的で作っていく人もいるけれども、剣くんの場合、じっくり、ステディに作っていくと思う。

剣 可能性、みたいなものが大事

まく絡み合って出来ているんですね。物を創る人間は熱っぽくこだま やっぱり宝塚だから、っていう雰囲気が好きで入りましたから楽しいですね。髪型とかでいろいろ変われますから、楽しんで工夫してやっていきたいですね。変身願望も強いです。

岡田 天才的に、感覚的で作っていく人もいるけれども、剣くんの場合、じっくり、ステディに作っていくと思う。

剣 可能性、みたいなものが大事



ムーディなショーセンタードラマをお楽しみ下さい

だと思うんです。天才的な人がこれ、と思って、広がらない部分がありますでしょ。

岡田 決まっちゃうとね。

剣 最初、一つの外郭を擴んでもあつなるほどなっていう枝葉があるて、それから元に戻つてそういうふうになればいいと思うんで、私がミミによって教えられる部分もありますし、結局はお互いにう

だと思うんです。天才的な人がこれ、と思って、広がらない部分がありますでしょ。

岡田 決まっちゃうとね。

剣 みんなそうだとと思うね。男役なんて特に。やりたいことはまだまだたくさんあるんですけど、宝塚の中でも今までにない、ちょっと枠を越えたものがやれたら本望ですね。その中でも、"ビーター・バン"みたいにすごく夢のあるもの、大劇場の中をウワアーッと飛び回りたい。どこかで吊つてもらつて、レーザー光線がバーンと当

たってとか。メチャクチャ悪で、トップが悪をやることは普通ないんですけども。どつかに人間の血が流れてる、みたいな悪。何かの理由でそならざるを得なかつた、みたいなのを演つてみたかった。私もいろんな風に変わりたいと思います。大きな人になりたい。

岡田 今、ウタコが「ビーター・バン」を演りたい」と言つたのを聞いて、なるほどなと思った。枠を越えるということは大切なことだし常に新しいものに挑戦していくことは、我々にとっても大切だし、宝塚も73年目前を向いて行かなくてはいけない。

剣 伝統的なものを残していくには対応しなければ、と思います。物を創る人間というのは、中が動いて、お客様が求めてくるものが変わっていますから、それ

岡田 物を創る人間というのは、いつも熱っぽくないといけないと

思う。新しいものに挑戦して、インター・ナショナルな視点もあってなつかつ、宝塚の伝統的なグレードのあるレビューを創りたい。創つて、いる段階ではいろいろ夢を描いています。

たってとか。メチャクチャ悪で、トップが悪をやることは普通ないんですけども。どつかに人間の血が流れてる、みたいな悪。何かの理由でそならざるを得なかつた、みたいなのを演つてみたかった。私もいろんな風に変わりたいと思います。大きな人になりたい。

岡田 今、ウタコが「ビーター・バン」を演りたい」と言つたのを聞いて、なるほどなと思った。枠を越えるということは大切なことだし常に新しいものに挑戦していくことは、我々にとっても大切だし、宝塚も73年目前を向いて行かなくてはいけない。

剣 伝統的なものを残していくには対応しなければ、と思います。物を創る人間というのは、中が動いて、お客様が求めてくるものが変わっていますから、それ

岡田 物を創る人間というのは、いつも熱っぽくないといけないと

思う。新しいものに挑戦して、インター・ナショナルな視点もあってなつかつ、宝塚の伝統的なグレードのあるレビューを創りたい。創つて、いる段階ではいろいろ夢を描いています。

STAGE

**MESSAGE
from
TAKARAZUKA**



創立(左) こだま業

エヴァにも裏切られさよなら
うジェフは、あの夜の日目
者ジジに救われる。旅芸人
一座の暖かさに包まれ、や
り直す決心をするジェフ
が、弟が組織に巻き込まれ
たことを知り、二度と足を離
踏み入れぬと誓ったバヘリ
帰っていく。ハードボイルド
な男の世界、がつちりと

BOW HALL

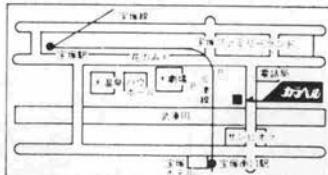
カリフオルニアの小さな自動車工場の整備

恋のチエツカーフラ

宝塚歌劇 座席券セットのホテル

宝塚レディース イン

• ご宿泊(朝食付) お一様￥5,000
(税・サービス料なし) 全室バス・TV付



レストラン
カラベル

RESTAURANT Caravelle

阪急宝塚南口駅、徒歩3分・阪急宝塚駅、徒歩5分
〒665 宝塚市武庫川町47-1 ☎0797(81)0001

●パリを舞台に月組のミュージカルロマン
STAGE
仕事のためアレクサン
ダーリ橋に佇すむ男ジエ
フ。狙つた男はジエフの巻
銃で倒れ、霧が晴ればつ
しい生活が始まるはずだつ
たが…。顔を見られたため
に組織から追われ、最愛の



した月組の芝居が楽しみ。
涼風 真世 郷 真由加
一年を締めくくるのは華やかなレ

つてゐるが、既に
思いが週末の馬
りたてる。そし
トと知り合う。
恋や結婚を夢見

雪組の一路真輝と紫とも
のフレッシュコンビが繰り
広げるコメディ・タッチの
青春ドラマ。

★バウ・ミュージカル『恋のエッセンス』
カーフラッグ 2幕 石田昌也作
演出・音楽 バウホール 11/10ま
で2800円

宝塚友の会サロン
宝塚市栄町1の1の57号
〒669-1185
電話番号 072-266-1185
郵便振替
神戸9-13286

花の道にある友の会サロ
ンには宝塚の情報がいっぱい
い。気軽にお寄り下さい。

毎月「宝塚だより」を郵送
その他、友の会行事への
参加、座席予約などの特典
もあります。



フレッシュメンバーのドラマ

NEWS

●友の会へのお誘い

NEWS

'86-'87 WINTER COLLECTION

ときには、時を止めて、アフター5の妖精になりましょう。



serizawa
KOBE

■本店 神戸市中央区三宮町3-1-8 TEL.078-331-1695 ■さんプラザ店 ■センター街店 ■さんちか店 ■P-4ショップ ■メンズ・セリザワ KOBE・OSAKA・TOKYO・KYOTO・HIMEJI

藤本ハルミの心意気みせた 大和撫子の夢を着る



花束をうける藤本ハルミさん

高砂の月 (パール/山勝真珠)



波の塔 (パール/田崎真珠)



雛の花嫁 (パール/大月真珠)



神戸ポートピアホテル借景の間で豪華なフィナーレ

緑茶色のドレスをまとった“夢童女”二人が誘う“藤本ハルミのファッショニマンス”「夢を着る」(K.F.M.会長)は、十月十五日'86京阪神ファッショニマンスの神戸発信のプログラムとして、神戸ポートピアホテルに、昼の部七〇〇人、夜の部デイナーショー二七〇人のファンが入場して、いかにもK.O.B.Eといえる美のアルカディアの世界へといざなつた。

第一回は明治一〇〇年の時(S43)に、第二回は流れれる季節に(S52)に開き、昨年まではK・F・Mのリーダーとしてショーを重ね、九年ぶりのライフワーキショード。日本の絹ときもの地を、日本女性のためのドレスをと、心をこめて仕上げた三〇点のオートクチュール作品。

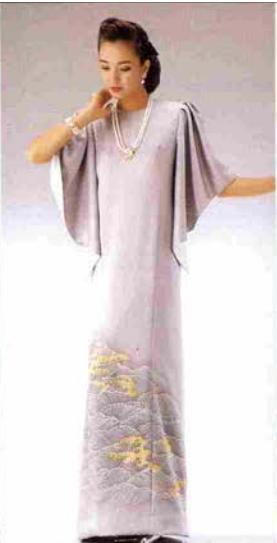
演出・岡田美代、美術・石阪春生、音楽・新井満、照明・林恵介さんらの一流スタッフに囲まれて地元の大月真珠、木下真珠、田崎真珠、森真珠、山勝真珠、そしてみよしや各社が協賛して、神戸のハイ・センスを磨きあげた豊潤な夢時間を九人のモデル達が彩った。

「キヤブテン」という船乗りの父を持ちハイカラ少女で育った私が、なぜ“日本”に“日本女性”にこだわるのかは、愛国少女として育くまれたせいだと田辺聖子先生に大和撫子の発光体といわれて気がつきました。

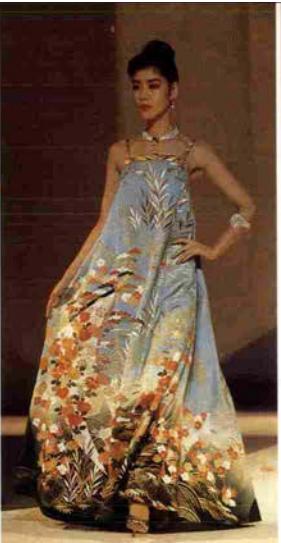
神戸の皆様のご協力を感謝します」と、藤本ハルミさんは少女のように愛らしくお礼の言葉でフィナーレを飾った。



華宴（パール/大月真珠）



海峡（パール/山勝真珠）



曲水の宴（パール/田崎真珠）



鴛鴦の賦（パール/木下真珠）



夢の蝶（パール/森真珠）



青い竜宮城（パール/大月真珠）



冬の銀河（パール/山勝真珠）



夢候よ（パール/田崎真珠）



芦刈（パール/木下真珠）



花曆（パール/森真珠）



辺聖子・柴田美保子さんと共に



小山乃里子・大月社長（右より）らと共に



久武真由美さんの作品前で/田崎社長夫人(右)



藤本ハルミさんを囲んで

■私のアメリカ(6)

産学協同精神のF.I.T すべての授業が新鮮

(株)紅屋 常務取締役



大きな期待と不安を抱きつつニューヨークでの生活は、アパート捜しから始まつた。毎朝、ニューヨーク・タイムズのアパート情報欄を見、朝早くから、日暮れまで約一週間、マンハッタンの中を歩きまわった。中には、東洋人をきらう人がいるかと思うと、大変親切に部屋を案内してくれる人もいた。やつとのことで、

国連ビルの近くのアパートの一室を確保した。家賃は少し高かつたが、短期間のことなので、安全で便利な場所を選んだ。

ファッショング工科大学(F.I.T)の授業は9月の初めより始まり、小生は、ファッショング店のバイヤーを志す人の為のファッショングマーチャンダイジングのコースを取つた。そのカリキュラムの内容は、約二十近くの基礎的な講座から成り立つており、アメリカのファッショング産業の歴史、経営数学、衣料素材、色学、ファッショングデザイン等、幅広く勉強させられた。これらの講座によつて、バイ

ヤーになるために、最も必要な基礎知識を身につけるように、くふうされていた様である。講師もほとんどの人が、産業界での経験者でしめられ、生きた事例等が、授業で使われる様になつていた。产学協同の精神が学内にいきわたつており、日本の大学を卒業した者にとって、大変新鮮であった。

ここでも、英語に対する不安は、現実になつてしまつた。英語での授業は、やはりなかなか聞き取りにくく、最初の内は、講義内容を理解するのに苦労した。しかしなく講義が終つてから、アメリカ人のクラスメートにノートを借りる様にし、又、それでもわからない時は、講師の所まで行き、何度も同じ質問をくりかえした。又、毎日ホームワークも多く出されたため、アパートに帰つてからも、夜おそくまで、机に向かつていた。しかし、日曜日になると、友達と映画を見たり、美術館に行つたりし、息抜きをした

ものだ。マンハッタンの中で生活をしていたので世界で一流といわれるものが、手軽に見たり、聞いたりする事が出来た。

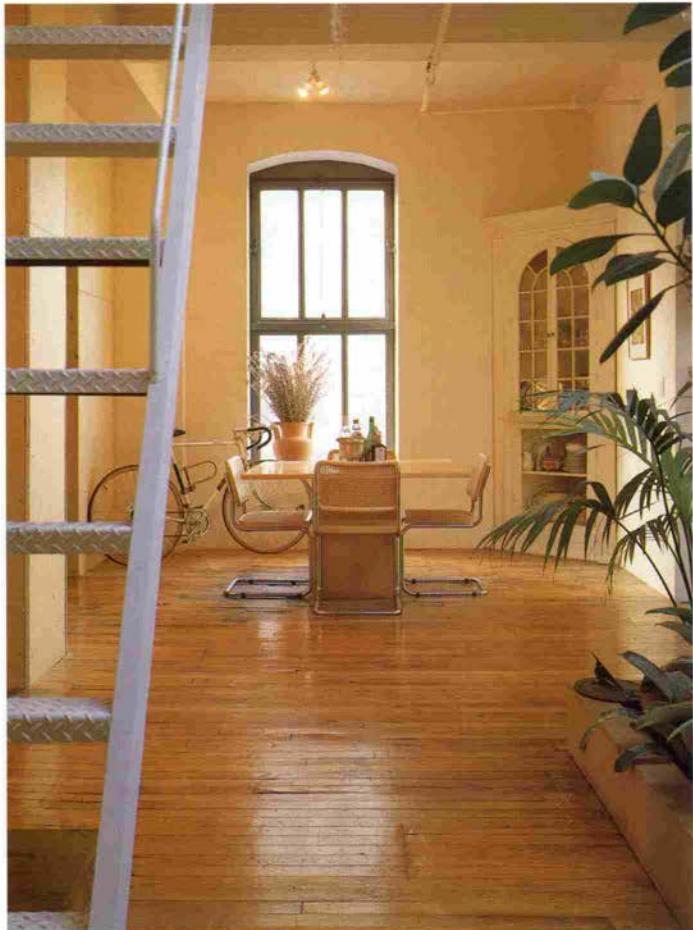
又、FITの講師の中には、親日的な人も多く、サンクスギビングの時等には、夕食に招待してくれたり、楽しい時を、過ごしたものだつた。外国の地で生活する者にとってやはり、家庭の味は、なつかしいものであつた。

そうこうしている内に、一年が過ぎ、FITも卒業の時を迎えた。喜びというよりも、何か、やつと終つたという、気

がして、緊張感が抜けていく様な快感を味わつたものである。

筆者紹介

昭和23年生れ、株式会社松谷富士男氏長男、昭和48年4月、米国州立ニューヨーク大学語学部へ入学、8月同校を卒業。昭和48年9月、ニューヨーク州立ファッション工科大学入学。昭和52年6月、米国州立ニューヨーク大学大学院経営学部修士課程修了。昭和60年5月、米国州立ニューヨーク大学国際経営学博士号取得。



「ニューヨークの窓」 PHOTO/菊池 満

老舗の伝統から
生み出された
手づくりの味を
贈る……。



ギフト各種 ¥1,500～¥5,000

創業明治六年

○ 龜井堂總本店

神戸・元町六丁目 (078) 351-0001(代)

瓦まんじゅう
やわらか焼
吹寄せ
お好みせんべい

ファミリア芦屋店OPEN!

11/1 sat. 国鉄芦屋駅北ラポルテ 2F



Fashions for Babies and Children

ファミリア

本社
東京支社

〒650 神戸市中央区西町36 ☎(078)321-0345
〒160 東京都新宿区新宿5-17-5 ☎(03) 209-6677

KOBE・OSAKA・KYOTO・NAGOYA・FUKUOKA・YOKOHAMA
TOKYO・SENDAI・NIIGATA・SAPPORO・HONOLULU